

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1950480010
法人名	医療法人 景雲会
事業所名	グループホームアゼリア
所在地	〒 409-1302 山梨県甲州市勝沼町菱山 中平4300 電話番号 0553-44-5311

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月15日

## 【情報提供票より】平成19年11月12日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18人	常勤	15人	非常勤 3人 常勤換算 15.68人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4	階建ての	0 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	■有( 105,000 ) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有( 100,000 ) □無		有りの場合 償却の有無 □有 ■無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 780 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年11月12日 現在

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲州市立勝沼病院・春日居リハビリテーション病院・近藤歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月19日

ぶどう棚の連なる高台に介護老人施設と併設された本館と新館の2ユニットのグループホームはぶどう郷駅も近く閑静で施設から展望する四季折々の自然環境は素晴らしい。事業所の理念である「品良く」「明るく」「やさしい」介護を旨とし利用者が「にこやかに」「個性豊かに」過ごすことの出来ることを全職員が共有してサービスを提供している。利用者希望により併設老健の大風呂に月数回温泉気分に入浴することを楽しみの一つとしている。利用者の穏やかな笑顔からも日々その人らしい暮らしの支援がなされていることが確認できた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者と職員と一緒に食事を取ることは暮らし全体の中でも重要であることを職員も認識して改善しつつあるが、職員が同じ食事を取ることを重要性を考慮し、検食として職員が交代で同じ食事を取るよう配慮している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で取り組み評価の狙いや活用方法を理解し質の確保と向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーは利用者、利用者の家族、地域住民、地域包括支援センター長、管理者、職員等で構成され、2ヶ月に一度開催し、サービス評価への取り組みも情報交換の中で活かされている。事業所の諸行事に地域の方々に参加していただけるよう、取り組んでいる。さらに事業所へのアドバイスや情報を頂きながら共にサービスの質の向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が面会に来た折には、利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を報告し、家族からも日ごろの思いを伺いコミュニケーションを図ることに努めている。また、年一回行う家族アンケートを通してそれらを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は、地域の行事や運動会等に積極的に参加したり、小・中学生の事業所訪問を通しての交流や月一回行われる日帰り遠足・食事会でも地域とのつながりを深めることを大切にしている。また、地域から依頼されることは快く相談にのるよう等して地域との連携を図っている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームアゼリア

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念は管理者の熱い思いを盛り込んだものが打ち出されてる。地域交流を大切にしつつ事業所が一丸となって日々サービスに当たっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念である「品良く」「明るく」「やさしい介護」を全職員で共有し目配り 気配りによるサービス支援を目ざしている。利用者の優しい笑顔から、ゆとりの支援が伺うことが出来た。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報誌で事業所を紹介し地域との関わりを大切にするように努め、地域の行事や運動会に積極的に参加したり、小・中学生の事業所訪問を通して交流等を大切にし、地域とのつながりを深めている。また、地域から依頼されることは快く相談にのるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解、把握し、自己評価については、全職員でカンファレンスで話し合われる。また外部評価の結果は運営推進会議でも報告され、事業所の質の向上に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは利用者、利用者の家族、地域住民、管理者、職員等で構成。会議は、二ヶ月に一度開催され、取り組んだ内容や活動予定等について報告し、その事に対する意見交換を行っている。推進会議の中で得た情報をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営に関わる諸問題など相談する機会をもち、市町村と事業所との連携をつねに保たれるようにしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全利用者の家族が市内に住んでいるのでコミュニケーションが取りやすく、面会を通して利用者の暮らしぶりや健康状態・金銭管理等について伝えている。また、電話にて連絡を密にしてお互いの信頼関係を築いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・意見・要望等は家族がそのつど、職員に話していただくか苦情・相談窓口担当が対応する。また年一回家族にアンケートで知らせてもらうようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職に伴う影響を最小限に抑えるための手段として離職の場合は三ヶ月前に届けを提出し、離職予定者と新人職員との引継ぎを万全に行い利用者の混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成を重要視し、職員の立場に応じて研修への参加を考慮し学ぶことの重要性を強く出している。受講後は研修内容を記録に残し全職員が共有できるようカンファレンスで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しその中での勉強会、交流会に参加し学ぶ場所としている。同業者との交流会をもち、その必要性を強く感じ今後も率先して機会を持つように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所は二泊三日くらいで受け入れ、一部は負担していただく。体験入所することにより徐々に馴染みのサービスが出来るように、家族と密に相談できるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にする関係は人生の先輩として生き様や料理など得意分野から学びケアに生かしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞きだせるようコミュニケーションを良く取り、お茶を飲みながら意向の把握につとめている。昼食の時、職員のパンの差し入れがあった。パンを大好きな利用者は職員の勧めに満足そうに食べる姿に「思いや意向の把握」を観ることができました。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意見を取り入れ家族からの要望や職員の意見はカンファレンスで報告され、それに基づいた介護計画の見直しがされる。		
16	37	、 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は一ヶ月で見直しを行う。介護計画の見直しは三ヶ月に一度であるが、実情に応じ介護の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のニーズにあわせ対応する支援をしている。事業所の自主サービスとしての病院への送迎、本人や家族の要望により通院の介助等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を基本とし家族と本人の同意を得た上で対応する。事業所としては提携の医療機関や近隣の総合病院等の連携は取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は利用者の自立した日常生活を目指すことを第一に考えているため終末期に向けた方針の共有は考えていなかった。	○	まだ該当者がいない場合もそうした場合に備えて関係者と話し合いをもたれることを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員がプライバシーの確保について常に具体的に確認し合っている。言葉使いも親しみのある口調で好感がもてました。個人情報等の扱いは秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活することの大切さを職員がサービスの中で心がけている。一諸に過ごす時間を作るための工夫がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業は利用者自ら台所に立ち手伝っている。同じメニューであっても利用者のニーズにあった盛り付けが工夫されていた。職員も利用者と共に食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週二回となっているが利用者の希望により入浴を楽しむ事ができ、時間帯も好みの時間に合わせられるように配慮している。また、併設老健の大風呂で週一回入浴することを楽しみにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのペースで生活することの大切さを職員がサービスの中で心がけている。一緒に過ごす時間を作るための工夫がされ、来客にお茶の接待をしている光景はホームの温かさを感じさせられました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が自由に外出できる支援があり、日用品の買い出し等も車を利用する。外出支援は介護計画の中でも取り入れている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保しながら日中鍵をかけない工夫は玄関にセンサーを設置し利用者の安全をはかっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル 消火器は一ユニット 三ヵ所設置有り。事業所独自の「自衛消防隊」の組織があり年二回防火教育・防火訓練をおこなっている。また年一回地元消防署の協力による防火訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事記録」があり利用者一人ひとりの食事の量バランス・水分量等に配慮した支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら配慮して、リビングは生活感や季節感を感じさせる居心地の良い、ゆったりした気分で暮らせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを配慮した居室にはその人らしい調度品が置かれ、また家族の思い出の写真がおかれ、温かさを感じさせ、居心地よく過ごせるよう配慮されていた。		